新潟県中学校教育研究会 研究主題

にいたる授業 深い学

先生方とともに、 よい授業」を 「より つの重点から 今年度は3

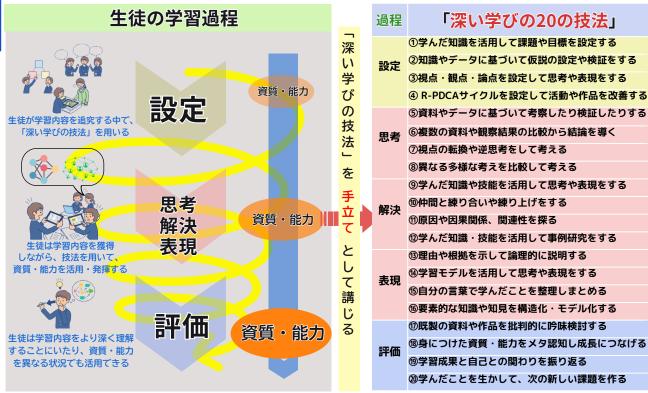
学び合い、高め合うことを目指します 先生方の授業づくりをサポートします

重点 1

「深い学びの技法」を基に、学習過程の

充実を図り、生徒の資質・能力を育成します!

生徒の学び



設定の過程

生徒が学習対象に対する目的や 課題、見通しをもてるように、 技法(左表①~④)を手立てと して講じる

「思考・解決・表現」の過程

生徒が教科等の資質・能力を存分 に活用・発揮しながら、課題解決 | を図れるように、技法 (左表 (5)~(6) を手立てとして講じる

評価の過程

生徒が資質・能力の高まりを実感しなが ら、学んだことを俯瞰したり、振り返っ たりできるように、技法(左表①~20) を手立てとして講じる

授業のイメージ

前の授業でうまくい ったから、今日もこの 観点で課題を追究して みよう!



前の授業で習った知識 で予想してみたけど、結果が違う・・・。何でだ

AさんとBさんの解 釈はなぜ違うのです か?2人の根拠を比べ て考えてみましょう。

みんなはどんな結果 になったのかな?みん なが調べた結果を比べ て考えてみよう。

> 他の人はどんな解決方法 を考えたのかな?今日 は、同じ解決方法の人と 考えを交流してみよう。



A、B、Cの結果から Dの共通性が見えてきた。 だから、このような法則が 成り立っているな。

他の人のアドバイスを もとにすると、自分が作 った作品は、Aの視点が もっと必要だな。再検討 してみよう。





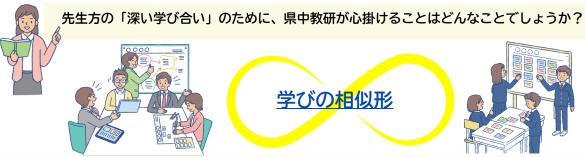
える視点は、別の単元を考える時も、有効な視点 になりそうだな。

令和10年度

重点2

ファシリテーションを取り入れた会員の「深い学び合い」を推進します!

教師の学び



「学び合い」に大切なことは、参加者同士のインプットとアウトプットの量を増やし、話し合い の質を高めることです。

検討会や協議会の目的に応じて、ファシリテーション(話し合いを促進する技法)を取り入れる ことで、参加者のインプットとアウトプットの量や質が高まり、研究の理解が促進されます。参加 者が自分事として、研究を捉えることができます。

県中教研では、検討会や協議会などでファシリテーションによって、「深い学び合い」の姿を実 現し、会員が生徒と同じように「深い学び合い」に向かうことを大切にしています。これは生徒が 深い学びにいたる姿と軌を一にするものです。

このように私たち教師と生徒の学びは「相似形」なのです。

重点3

持続可能な研究活動の在り方を目指した改善を図ります!

中教研の活動

令和6年度、「指定研究の在り方改善プロジェクト」を設置し、理事会、評議員会での審議を経て、今年度 から指定研究の在り方を改善していきます。

令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和7・8年度指定研究 令和8・9年度指定研究 ※移行期間に、新支援制度のヒアリングを実施し、大綱を作成する(各地区 郡市中教研会長会、各地区校長会、指定研究関係者)。 D指定研究の部会の変更

令和9・10年度指定研究

生徒指導と進路部会がなくなり、15部会から13部会に。

指定研究の地区ローテーションの変更

全ての教科・領域が4年に1度の指定研究に

③支援制度の拡大(任意で活用可能)

同じ地区内の郡市や隣接する他地区の郡市から研究推進の委員委嘱が可能に

指定研究とは?

各郡市の研究推進委員会による「深い学びにいたる授業」の授業研究、研究 会による授業提案などを通して、会員一人一人の研修意欲の高揚と資質・能力 の向上を目指す事業です。